



居住貧困

実践交流シンポジウム

2019年

4月26日(金)

16:00~19:30 (15:30開場)

資料代：1000円(当日)

会場：衆議院第二会館会議室

●国会議事堂前駅(東京メトロ丸ノ内線、千代田線) ●永田町駅(東京メトロ有楽町線)

定員：140名

女性の居住貧困問題を中心に課題解決に向けたサポートポリシーと実践を学びあう

私たちは韓国とりわけソウル市の「市民民主主義」の実践について訪韓団も派遣し学んできました。普遍主義を根本に据えた社会福祉を政策に掲げ、福祉職員を倍増し、担当公務員と看護師がペアで家庭訪問、地域の住民主導のネットワークと連携し、申請主義を克服するチャットン事業(出前型福祉サービス)を展開、生活保護捕捉率も飛躍的に高めています。



今回の交流シンポジウムは、共通の深刻な課題である日本と韓国における居住貧困、とりわけ、母子世帯、DV被害、ホームレス女性など、居住貧困問題の重要な一角である女性の居住貧困に焦点をあてて考えていきます。

プログラム



司会進行 雨宮処凛(反貧困ネットワーク世話人)

韓国より

①韓国の女性ホームレス問題とサポートポリシー

ソジョンファ

～徐 貞花さん(開かれた女性センター所長)



②地域住民共同における貧困問題の解決に向けて～アウトリーチ福祉の実践報告～

カンネヨン

～姜 乃榮さん(住民連帯運動活動家)

日本より

①日本における居住貧困の現状と「ハウジングファースト」モデルの実践

～稲葉剛さん(つくろい東京ファンド代表理事)



②母子世帯、DV被害者など女性の居住貧困の現状と解決に向けた提言

～葛西リサさん(母子世帯の居住貧困研究者/日本学術振興会研究員)



—問題解決に向けた討論—